

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

高槻
インスタグラマーと

富田編

OLD/NEWなまちへ

令和8年

9

No.1462

PICK UP

- 10 命をつなぐ119番の実は…
- 18 高槻将棋まつり
- 33 高槻ハーフマラソン
- 36 このまちで暮らす理由

富田へプチトリップ

富田でも駅から南側は、古くから寺内町や酒どころとして栄えた歴史を伝える風情あるまちなみが残っている。新しい店も増えて魅力を増すこのまちを、高槻の魅力を発信するインスタグラマーと歩いた。



庄巻の
大きさ！

富田のランドマークのような本照寺は、迫力ある大きさの本堂と立派な山門が印象的。境内には昭和46年に枯死した樹齢約700年の富寿栄(ふすえ)の松の根株も



ここ通って
いいのかな？
って感じの
裏道沿いに
流れている

地元では「五社の水」と呼ばれる五社水路。安威川から取水していた用水路で、はじめは古墳時代にさかのぼるとも。現存するのは阪急線から筒井池まで

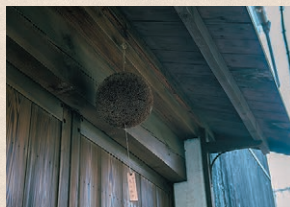
木漏れ日に癒やされる筒井池。かつて富田の中心に広がっていたため池で、車道に面した南東隅には田んぼに水を供給していた水路と水門跡が



春には
いろいろな
種類の桜がキレイ
なのだそうです



コントラストが
美しい！



酒蔵は杉玉と焼杉が風情たっぷり



わたしが
レポートします！

まだ知らない高槻さん

1年前、高槻に移住。住みやすさと人のあたたかさから高槻が大好きになり、このまちの魅力を伝えたいとインスタグラムをスタート。安満遺跡公園が大好き

寺社と酒蔵が伝える 歴史の面影

高槻の西部にある富田は、戦国時代には寺内町、江戸時代には酒造りを中心に発展した歴史あるまちです。その面影は、筒井池や本照寺のまわりに点在しています。本照寺の前の路地を高槻の地酒を造る酒蔵のほうへ進むと、住宅地のなかに昔の風情をたたえる家屋が残る独特のまちなみが。空気感が変わり、まるで昔の時代へとタイムスリップしていくような気分。時の流れと地域の息づかいを感じるまちあるきが楽しめます。



富田酒の伝統を守り続ける蔵元がある通りは、とくに富田らしい情緒を感じるエリアのひとつ



説明を
見ながら
じっくり
選べる

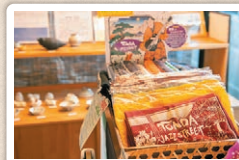


清鶴酒造

安政3(1856)年創醸。2軒残る蔵元のひとつで、もろみを袋につめてじっくりしぼる昔ながらの袋しぼりなど手づくりの工程をいかした酒造りを続けている。直売所ではさまざまな銘柄がずらり

笹井屋

2つの蔵元の富田酒と、富田酒を使った酒まんじゅうなどが買える店。富田ジャズストリートの「ジャズT」や手ぬぐい、地元陶芸家が手掛ける富田焼、地元の方が作った登り人形なども



2階は
フリースペースで
書道展や
落語などの
催しが





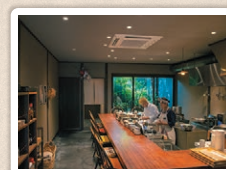
切妻造りや漆喰塗り、高さを抑えた厨子(つし)二階、虫籠(むしこ)窓、格子窓など江戸時代特有のデザインがあちこちに



富田で最古の町家。玄関、勝手口、荷物の搬入口の3つの入り口がある



浄土真宗中興の祖、蓮如上人が拠点としたのがはじまりという教行寺。当時は「富田道場」と呼ばれ、ここを中心に寺内町が形成された



細い路地を曲がるたび どこか懐かしい風景に出合える

軒先に杉玉を下げた酒蔵、板塀や格子戸などのある町家、まちとともに歴史を重ねてきた寺社。表情豊かなまちなみは静かで、時間の流れもゆるやかです。入り組んだ路地やなだらかな坂道は、ちょっとした迷路のよう。探検気分で散策しながらふと視線を横に向ければ、まちかどでひっそりと地域を見守り続けてきたお地藏さん。顔が白いのはおしろいが塗られているのだそう。初めて来た場所なのになぜか懐かしい。昔と今が調和するまちは、ぶらりと出かけるのにちょうどいいサイズです。

絵馬堂には酒樽と一緒に明治天皇への奉納額が



お酒の神様をまつる三輪神社は富田の氏神様でもあり、地域に深く根付いている。境内には以前祭りで使われていた2基の神輿(みこし)も。鳥居の大しめ縄作りは年末の伝統行事



食堂 椿 別館

町家をいかした店は大人の隠れ家のようなこころやさ。土鍋で炊いた無農薬米の「お結び」と、新鮮な旬野菜がたっぷりの「おばん菜セット」には“まごはやさしい(※)”の食材がすべて入ったお味噌汁も。心も体もとのえてくれるよう

※まめ類、ごま(種実類)など、健康的な食事のために摂りたい7つの食材の頭文字を組み合わせたキーワード



テイクアウトも充実

お米が口の中でほろりと崩れる！



クラノミ(國乃長タッブルーム)

富田に残るもう1軒の蔵元、壽酒蔵のさまざまなお酒が角打ちスタイルで楽しめる。文政5(1822)年創醸以来、富田酒を守りながら、大阪初のクラフトビールや上質な酒粕を使った焼酎など新たな酒造りへの挑戦を続ける。おつまみは持ち込み制



直売所も兼ねているので気に入ったらおみやげにも



期間や数量限定のお酒も



よく見るとひとりひとり顔が違う...



あちこちで遭遇するのが、顔が白く塗られた「化粧地藏」。地藏盆にはきれいに洗って化粧なおしをするのだとか。出世地藏、大日地藏尊など名前があるものも

富田がもっと魅力的に！

独特の魅力を引き継ぎ、心豊かに安心して暮らせるまちへ

富田では、さらに魅力的に住みやすく、にぎわいあふれるまちを目指すプロジェクトがスタート。小寺池図書館のリニューアルを皮切りに、コミュニティセンターや公民館もある富田支所を建て替え、まちのリビングになるような新しい公共施設も整備予定。歴史と文化のまちにふさわしい、伝統芸能にも親しめるホールや資料館、趣あるまちなみの維持・保存、創出の計画も。

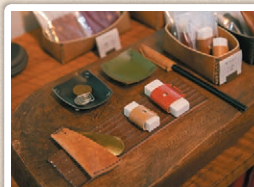


小寺池図書館は親子でくつろげるお話コーナーや屋外テラス、自習室などより快適に



筒井池公園の一部を利用して富田支所を新築移転、地域の活動拠点として整備





革を
余すことなく
使い切るという
気持ちが
ステキ

KAKURA

職人の手仕事による革・紙・陶製品のブランド。
階段を下りるとコンコンと革を打つ音。工房に
併設されたショップに並ぶ一枚革の手帳や小
物はどれもシンプルで、使うほどに味が出そう。
小さな革をいかした文具もたくさん



風情あるまちなみへの入口には

スタイルある店がたくさん

昔ながらのまちなみをめぐったあとは、
活気あふれる駅の方へと戻ります。駅に
続く通り一帯は富田商店街。創業100年
以上の老舗から新店まで、仲良く共存し
ています。最近はとくにオリジナリティの
あるおしゃれな店も続々誕生していて、
わざわざ来る価値アリのグルメやおみ
やげ探しが楽しめます。
古き良き伝統を守りながら、新たな感性
を取り入れて進化を止めない富田。歩く
たびに新鮮な発見に出合える「古くて新
しい」まちでした。



どれも
かわいくて
選べない〜



ル・タン・デ・ミエル

Le temps de miel

「ケーキ＝特別」じゃなくもっと気軽に楽しんでほしいと生
まれたカスタードパイ「ルタン」と「ミエル」は、完売する日
も多いとか。色使いやフォルムが特徴的な生ケーキも、焼
菓子を自分で詰めるブック型ギフトも、目移り必至



駅からすぐのところにある小
寺池は地域の癒やしスポット



ケーキも
空間も、
すべてが
絵になる！



cafe sud

自然光が差し込む空間で、グラキリス
などの塊根植物(販売品)をぼーっと
眺めていると時間を忘れそう。旬のフ
ルーツを使ったタルトはみずみずし
くて、キャラメルの特リーヌはなめら
かで濃厚。最後のひと口までしあわせ



足元の
ライトアップ部には
店内の壁際に
埋め込まれた
落雁の型が

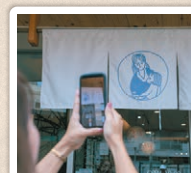


KAMATARI

モダンで洗練された空間に、ていねいに作ら
れた和菓子が美しく並ぶ。旬の果物を使った
フルーツ大福は、甘酸っぱい甘夏と白餡がい
いバランス。元米穀店ということもあり、おは
ぎや小餅、お赤飯なども人気ののだそう



こんなに
種類が
あるんだ！



月輪堂

高機銘菓「たらちね」で知られる店。
おなじみのどこか懐かしいピーナツ
ツ味に加え「アーモンド」(左)や「ぶ
ぶチーズ」(上)、「濃いカカオ」(右)な
どの変り種も。子どもも大人も改
めて好みの味が見つかりそう



食す ～kusu～

路地の奥にある担々麺の店。
「スープカレー担々麺」など
女性店長自ら試作を重ねた
メニューがたくさん。なかで
も「カルボナーラ担々麺」(写
真)は、まろやかでクリーミー
と思いきや香辛料の深みや
辛みが追いかけるような初
めての味わい



スタイリッシュで
女性も
入りやすい

まちあるきを終えて

歩くほどに、好きになる 人と歴史が織りなすあたたかいまち

富田のまちを歩いて強く感じたのは、歴史ある酒蔵や町家などの
古き良き時代の名残りと、駅前の洗練されたお店という新しさが、
絶妙なバランスで溶け合うこちよさです。ここで暮らしてきた方
からは地元への思いが伝わり、お店の方も「地元の方があたたかく
て、ここで店を開いてよかった」と言われていました。歴史や伝統を
ただ守るだけでなく、新しい感性や人を受け入れ、みんなで魅力ある
まちにしていこうとするエネルギーを感じます。歩くほどに愛着が
わく、本当にステキなまち。これからの進化が楽しみです。



まだ
知らない
高機に
出会えた！